

水痘(水ぼうそう)について

水痘は、水痘-帯状疱疹ウイルスの直接接触、飛沫感染、空気感染によって起こります。潜伏期は、通常2週間程度(10~21日)で、特徴的な発疹が主症状でかゆみや軽い発熱を伴います。発疹は最初斑点状丘疹、その後3~4日は水泡で、最後はか皮(かさぶた)を残して治癒します。発疹はお腹や背中、顔などに多い傾向がありますが、頭髪部にも現れます。通常、1週間程度で治癒しますが、まれに脳炎や肺炎、肝機能の異常を伴うことがあります。また、皮膚から細菌が感染して化膿したりすることはまれではなく、敗血症などの重症の細菌感染症を合併することもあります。免疫機能が低下している人などは、重症化のリスクがあります。

水痘ワクチンについて

水痘-帯状疱疹ウイルスを弱毒化してつくった生ワクチンです。このワクチンを1回受けた者のうち、約20%は、後に水痘(水ぼうそう)にかかることがあります。もしかかって軽くすむとされていますが、確実に予防するためには2回の接種を行います。

水痘患者に接触した場合、3日以内にワクチンを接種すれば発症を予防できるとされ、院内感染の防止にも使用されています。

水痘ワクチンの接種において、接種後2週間以内にリンパ球の減少あるいは免疫機能の低下が予想されるような治療が予定されている場合や、白血球の強化療法、あるいは広範な放射線療法などの免疫抑制作用の強い治療を受けている場合には接種を避けてください。

また、急性骨髄性白血病、T細胞白血病、悪性リンパ腫の場合には、持続性免疫不全状態にあることから、臨床反応が出やすく抗体価の上昇も悪いので、接種は推奨されていませんのでご注意ください。

副反応

健康小児には副反応はほとんど認められませんが、時に発熱、発疹がみられ、まれに局所の発赤、腫脹(はれ)、硬結(しこり)がみられます。重大な副反応としては、まれにアナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、帯状疱疹を伴った無菌性髄膜炎があります。

対象者及び 接種スケジュールに ついて

生後12か月以上36か月未満

※対象年齢を過ぎると、公費での接種は受けられなくなります。

※既に水痘にかかったことがある人は接種できません。

1回目
接種

標準的には6か月から12か月(最低3か月以上)

追加接種

接種時に持参するもの

- ① 水痘ワクチン予防接種予診票
- ② 母子健康手帳(接種歴を確認するとともに、予防接種を受けたことを記録します。)